

市内の中学生 652 人が一斉に職場体験

中学生キャリアウィークを 9 月 10 日から 14 日まで実施

市教育委員会は、9 月 10 日から 14 日まで中学生キャリアウィークを実施しました。これは、市内 6 つの中学校の 2 年生全員が、公共機関や医療施設、製造工場、保育園など市内を中心とした事業所で職場体験する事業。中学生に実際の職場での仕事を体験してもらうことで、将来の進路選びや目標づくりに役立ててもらおうと行われました。また、地域の事業所で仕事を体験することで、地域の産業の魅力や良さに気付いてもらい、地域に貢献できる生徒を育てる狙いもあります。

■柳川病院で看護師として職場体験

蒲池中学校の近藤そよかさんと柳城中学校の新開菜弥さんは、一般財団法人医療・介護・教育研究財団柳川病院（筑紫町）で看護師の仕事を体験。2 人は、同病院看護師の平方聡子さんの指導を受け、入院患者の受け入れや、患者とコミュニケーションをとっての容体確認、血圧測定などを行いました。「患者さんとのコミュニケーションの大切さが分かりました」「初めて知ることばかりで楽しかったです」と近藤さんと新開さんはそれぞれ感想を述べました。平方さんは、「今回の体験がきっかけとなって、将来 2 人が看護師になってくれるとうれしいですね」と話しました。

■川島製作所で機器の部品づくりに挑戦

三橋中学校の砂坂優太君と田中俊丞君は、ノリの乾燥や選別などを行う機器を作る株式会社川島製作所（棚町）で機器の部品づくりを体験しました。ものづくりが好きなので工業系の仕事を体験したかったという砂坂君は、「思っていた以上に難しかったけど、出来あが

るとうれしいですね」と話し、田中君は「早く、正確に作る難しさが分かりました」と感想を述べました。2 人を指導した百武光雄さんは、「2 人には職場を知りたい機会だと思います。ものづくりの楽しさを少しでも分かってもらえれば」と思いを述べました。



【写真上】柳川病院で職場体験した近藤さん（左）と新開さんは、患者と会話をして容体を確認した
【写真左】川島製作所で従業員の百武光雄さん（左）から指導を受ける砂坂くん（中央）と田中くん（右）

生きる力がしっかり身についたようです

中島小学校 6 年の児童 8 人が大和公民館で通学合宿



実行委員さんの指導を受けながら野菜炒めを作る児童たち

9 月 4 日から 8 日までの 4 泊 5 日の日程で、中島小学校の通学合宿が大和公民館で行われました。この取り組みは、親元を離れ身の回りのことを児童自らが協力して行うことで、自立心や生きる力を高めるのが目的。6 年の児童 8 人が参加しました。取材した 7 日の夕方はちょうど夕食の準備中。児童たちがぎこちない手つきで調理するのを、実行委員がはらはらしながら見守る姿も見受けられました。しかし実行委員の 1 人で同校育成会の仲子哲雄会長は「子どもたちは役割を与えればきちんとできます。子どもたちが持つ潜在力を確認できました」と頼もしそうに話しました。

厳しい練習を重ね 18 年ぶりの快挙

第 22 回福岡県消防操法大会で 3 位入賞

9 月 9 日に福津市で行われた第 22 回福岡県消防操法大会の小型ポンプの部で、市消防団が 18 年ぶりとなる 3 位入賞を果たしました。

大会に出場したのは、三橋町の各分団から選ばれた平野智典さん（指揮者、19 分団）、高巢博敏さん（1 番員、第 17 分団）、中村毅司さん（2 番員、第 20 分団）、甲木亘さん（3 番員、第 16 分団）、河口裕一さん（補助員、第 18 分団）。出場した小型ポンプの部は、3 本のホースをつなぎ、63 メートル先に設けられた標的に放水し、当たるまでの時間と動作の正確さを競う種目です。選手たちは、5 月 14 日から夜間練習を開始。お盆を過ぎてからは、週 5 回の練習の重ね、1 秒の時間短縮と細かい動作の確認を繰り返してきました。

本番で選手たちは、監督の高橋剛さんを「最高の出来だった」とうならせる演技を見せ、見事に 3 位入賞を果たしました。

9 月 14 日、選手たちは、中村明彦消防団長らと共に金子市長を訪れ入賞を報告。金子市長は、「九州北部豪雨の復旧作業などもあり、限られた時間での練習だったと聞いています。このような厳しい状況で得た銅メダルは、金メダルに値すると思います」と団員らの健闘をたたえました。高橋さんは「豪雨で自宅に浸水被害が出た団員もいました。本当に大変な中、良い結果を出してくれて涙が出ました」と喜びを語りました。平野さんは「本番に出たのは 5 人ですが、入賞できたのは、共に練習した仲間や支えてくれた人たちのおかげです」と感謝の気持ちを述べました。



【写真上】県消防操法大会で 3 位入賞を果たした市消防団のメンバー。前列左から中村毅司さん、高巢博敏さん、高橋剛さん、平野智典さん、河口裕一さん、甲木亘さん
【写真左】大会本番の小型ポンプの部の様子

下水道に油や生ごみを流さないで

9 月 10 日の「下水道の日」に街頭 PR

市は 9 月 10 日の「下水道の日」に、下水道への理解や関心を高め、普及を進めようと、西鉄柳川駅周辺で街頭 PR を行いました。この日は、観光柳川キャンペーンレディ水の精や市職員などが、チラシや、環境せっけん 300 セットを配布。正しい下水道利用を呼びかけました。

■排水設備の早期工事にご協力を

下水道を利用できる区域（供用開始区域）に住んでいる人は、「受益者負

担金」と「排水設備工事」が必要です。

下水道が利用できるようになってから、くみとり式のトイレを使用している家庭は 3 年以内に、合併処理浄化槽を使用している家庭は遅れることなく下水道へ接続するよう、下水道法で義務付けられています。まだ接続していない家庭は、できる限り早く接続をお願いします。

問い合わせは、市下水道課（☎ 77・8585）まで。



駅前ではチラシやせっけんを配り、正しい下水道利用を呼び掛ける水の精